

# 要 約

| 報告番号  | ① 乙 第 号 | 氏 名 | 神 谷 諭 |
|---|---------|-----|-------|
| <p><b>主 論 文 題 名</b></p> <p>Auxiliary diagnosis of lymph node metastasis in early gastric cancer using quantitative evaluation of sentinel node radioactivity<br/>(早期胃癌センチネルリンパ節生検におけるラジオアイソトープ活性の定量的測定とリンパ節転移に関する検討)</p>  |         |     |       |
| <p><b>( 内 容 の 要 旨 )</b></p> <p>早期胃癌に対する放射性同位元素 (radioisotope : RI) をトレーサーとしたセンチネルリンパ節 (sentinel node : SN) 生検が臨床応用されてきている。時間的・技術的制限のある術中迅速病理診断では、微小転移の正確な診断はときに困難であり、安全なリンパ節 (lymph node : LN) 郭清省略のためのより効率的で正確な診断法が求められている。LNに集積したトレーサー量は各SNのRIカウントで測定可能だが、その臨床的有用性はほとんど議論されていない。LN転移診断における定量的RIカウントの有用性について検討した。</p> <p>慶應義塾大学病院において2008年から2009年にcT1N0M0と診断され、SN生検と胃切除およびLN郭清が行われた早期胃癌症例を対象とした。SN生検にはインドシアニンググリーンとテクネシウムスズコロイドをトレーサーとし、LN転移とRIカウントとの関係を後方視的に検証した。</p> <p>対象となった72例から308個のSNが同定され、11例 (15.3%)/18個 (5.8%) のSNに転移を認めた。うち7例は術中迅速診断でSN転移が診断されたが、4例は術後の免疫染色により初めて微小転移が診断された。すなわち、すべての同定SNを凍結切片としてHematoxylin Eosin染色で診断する、従来の術中迅速病理診断法での転移診断正診率は94.4% (68/72) であった。転移を有する症例では合計RIカウントが高値であり (P=0.007)、また症例内での相対的なトレーサー分布を示すRIカウント割合を算出すると、転移のあるSN/領域/流域では有意にRIカウント割合が高値であった (P &lt; 0.05)。転移を認めた11症例に関して、症例内で最もRIカウントの高いSNには微小転移を含めた転移が72.7% (8/11) に存在した。RIカウントが高い順に詳細な転移検索が可能であれば、その診断正診率はSN1個の検索で95.8% (69/72)、2個で97.2% (70/72)、3個で98.6% (71/72) であり、従来の方法より精度が高かった。</p> <p>本検討において、早期胃癌SN検索におけるRIカウントおよびカウント割合はLN転移と関連し、転移LNにはより多くのトレーサーが集積していた。各症例においてRIカウント順にOne-Step Nucleic Acid Amplification法などの詳細な転移検索を行う事で、より効率的で正確な術中診断が可能と考えられた。本検討におけるトレーサー不均等分布の理由の一つとして、転移が生じる際のリンパ管やリンパ節の微細構造の変化が考えられたが、転移LNにおける転移巢の病理所見など、更なる検証が必要であると考えている。</p> <p>今後SNを指標とした胃癌個別化手術を実施するうえで、SNの定量的RIカウントは効率的な転移診断に有用であると考えられた。</p> |         |     |       |